



くらしのニュース4月号

2022年(令和4年) NO. 490 令和4年3月24日発行
発行/苫小牧市市民生活部市民生活課 ☎32-6306(直通)

相次ぐ値上げのなかで・・・

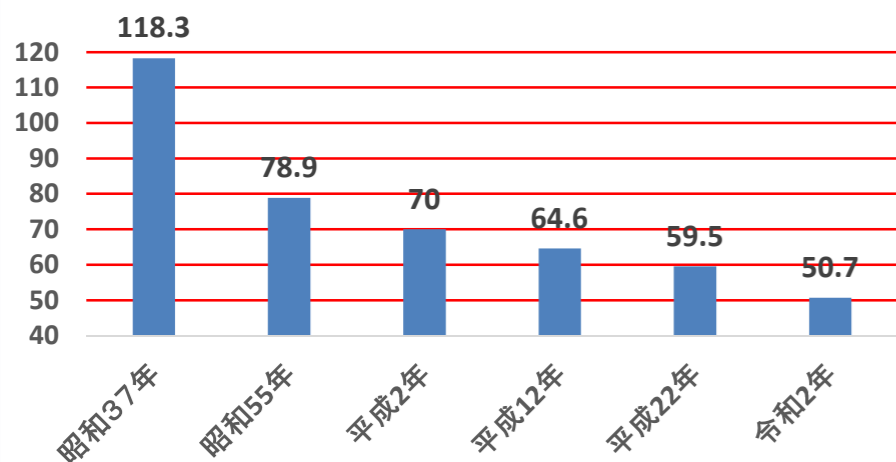


この数ヶ月、原材料費や輸送費の高騰によって食料品等の値上がりが続き、私たちの生活にも大きな影響が出ています。

相次ぐ値上げの中ですが、値下がり傾向の品目もあります。私たちの主食である「お米」です。

お米の値下げの要因は、昨秋の豊作やコロナ禍における外食需要の落ち込みであると言われていますが、お米の自給率はほぼ100%であり、今後も原材料費の高騰等の影響は小さいと考えられます。家計の負担を考えると嬉しい状況です。

お米の消費量



農林水産省のデータによると、国民1人が1年間で消費するお米の量は、昭和37年の118.3kgをピークに減少傾向になっています。令和2年度では、50.7kgまで減り、ピーク時の半数以下まで減少しています。



朝食にごはんを食べて！

お米の消費量は、年々減少傾向にあります。代わりに「小麦」の消費量が増加しています。小麦は、パン類、麺類、お菓子など多様な用途に使用されていますが、国内消費の約9割を輸入に頼っているのが現状で、原材料費の高騰を受け、今後も値上がりが確実視されています。

お米には、炭水化物とタンパク質のほかにも、ビタミン類、ミネラル、食物繊維など、色々な栄養素が含まれています。中でも、タンパク質は牛肉や牛乳と同じくらい質が良く、身体に必要な必須アミノ酸がバランスよく含まれています。

これを機に、朝食をごはんにしてみてください。



知っていますか？

原料原産地表示制度



ハムやソーセージ、冷凍食品やお惣菜などの加工食品を選ぶ際、「使用されている原材料の原産地はどこだろう？」と気にすることはありませんか。これまで一部の加工食品にのみ義務付けられていた原材料の原産地表示を、全ての加工食品に拡大する新たな表示制度が4月から始まります。

今後は全ての加工食品に原材料の産地が表示されます

(一部の加工食品にのみ義務付けられていた原材料の産地表示が、全ての加工食品に拡大されます。※外食、容器包装に入れずに販売する場合、作ったその場で販売する場合、及び輸入品は対象外です。)

○産地が表示されるもの・・・全ての加工食品の1番多い原材料

○表示方法・・・・・・・・・・「国別重量順表示」「製造地表示」「又は表示」「大括り表示」

産地表示のここが変わります

○1番多い原材料が生鮮食品の場合は、その産地が表示されます

○1番多い原材料が加工食品の場合は、その製造地が表示されます

(ただし、1番多い原材料に使われた生鮮食品の産地が分かっている場合には、「〇〇製造」の代わりに、その産地が表示されることもあります)

《表示のルール》

その商品の内容を表す一般的な名称で表示されます

2か国以上の産地の原材料を使用している場合は、多い順に国名が表示されます

使用された原材料が量の多い順に表示されます

名称	牛豚合挽肉
原材料名	牛肉(オーストラリア、 <u>ニュージーランド</u>)、豚肉
内容量	100g
消費期限	2022.4.26
保存方法	4℃以下で保存

裏面に、参考例を掲示しています